雲晴寺便り

編集・発行
雲晴寺住職
五十川幸導
令和5年7月
第1号

ご先祖さまを敬い、自己の心と向き合い心を養う

仏教に学ぶ生きる意味

大施食会法要・八月四日（金）

お盆の大切な法要です　ご参拝ください

今年ももうすぐお盆の季節です。夏の風物詩ですが、年中行事として先祖供養が行われるというのは、日本ってほんとにいい国だなあ、と思います。私たちは誰でも父母から生を受け育ちます。

父母はその祖父母から、祖父母は曾祖父母から：生きとし生ける物は例外なく「先祖」代々命を受け継いでこの二十一世紀に生きています。ご先祖があっての私たちな訳ですね。そして今を生きるのは自分だけでなく隣の人も等しく先祖から尊い命を受け継いだ「私」です。世界中で等しく尊い「私」が生きている。自他の区別なく命を等しく尊い物とするのがすなわち慈悲の心です。お盆はご先祖様から慈悲の心を教わる行事なのかもしれませんね。

わかちあう喜び

施食会（せじきえ）は施餓鬼（せがきえ）会ともよばれ、仏教徒としての「わかちあう心」を表わした呼び名です。施食会の願いは、自らの欲深い気持ちを反省し、人々がお互いに分かち合い、支え合う喜びを共にし、亡くなった人々に感謝の誠を捧げるために食を施させていただくという大切な行事です。特に初盆の方は必ずご参拝ください。奪い合えば人は傷つき、分かち合えば人にやわらぎがあらわれてきます。施食会を通して布施の精神を知ることは大変重要なことです。施食会案内状は別紙。

寺報を発行します

ともに生きる　禅の力をわかりやすく

いま、宗教のあり方が問われていると思います。また、求められている時代なのかとも思います。大震災や全国各地で発生する自然災害、また自死やいじめ等、「いのち」を軽視する問題が深刻化しています。さらには、宗教の簡略化、それを営むご遺族の考え方も様々に変化していると感じます。これら多くのこととして、今どのように向き合い、取り組んでいくのかが、現代社会が宗教に求めていることではないでしょうか。

この度、寺報「雲晴寺便り」を刊行することになりました。寺報はお寺がどんな活動をしているのか、仏教について、ご先祖のお祀りの仕方、禅のお話など、雲晴寺の新しい出発点として、皆様の役に立つ、必要な情報を発信できないかと考えました。今お寺や仏事を巡る環境は大きく変化しています。大事な意味は後回しにされ、「値段」や「手軽さ」だけがクローズアップされている気がします。あまり大きな事はできませんが、せめて雲晴寺の檀家様、信徒様、永代供養の会員様や坐禅会の参禅者やご縁の皆様には、「命のあり方」を大事にする仏教本来の意味と必要な知識をお伝えしていきたいと思っています。質問にお答えするコーナー、法話やコラム等、皆様に楽しんで頂けるようにいろいろと工夫していきたいと思っています。今のところ年二回、お盆号と年始の正月号を発行予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

今を生きる練習・重版出来

ユーチューブのチャンネル登録者数135万人の超巨大チャンネル、「本要約チャンネル」でも紹介

わたくし住職、五十川幸導が昨年執筆した著書「今を生きる練習」がおかげさまをもちまして、重版されました。この本は、生き悩む世の中の人へ向けて、禅や仏教の教え優しく紐解き、一人でも多くの人の生きる支えになれるように、一所懸命に書かせていただきました。護持会員様などへは著書を贈らせていただきましたが、まだ、お読みいただいていない方がいらっしゃいましたら、ぜひ1度手に取っていただけましたら、幸いです。

実際に本を読んでいただいた方から、感謝のお電話やお手紙をいただいております。僧侶として世の中の誰かの力になれればと真剣に思っておりますので、読んでいただいて良い本だと思っていただけましたら、誰かに薦めていただいたり、SNSをされる方は、広めていただけると大変嬉しく思います。今の時代、孤独で苦しんでいる方々を沢山見てきております。

特にこれからの若い世代の方々への力として、微力かもしれませんが、この本の一文や一言がメッセージになればと願ってやみません。

またユーチューブのチャンネル登録者数135万人の超巨大チャンネル、「本要約チャンネル」さん、東洋経済オンラインなどでも「今を生きる練習」が良本として紹介されました。ご縁を広げていただき、感謝いたします。全国の書店やアマゾン・楽天ブックスなどのネットでも購入いただけます。

宗教やお寺の役割とは

最近、本物の宗教かどうかの見分け方はなんですか？と聞かれました。この教えだけを信じていれば救われると説くのは、違和感があります。高い山を登るのに、様々なルートがあるように、幸せのつかみ方は人それぞれで良いと思います。私は曹洞宗の僧侶ですが、他の伝統仏教や宗旨が違っても、それも正しい教えのひとつと思っています。新宗教にありがちな、自分の宗派以外は邪教だと教えたり、自分の考え方以外の人を認めなかったり、他の人の幸せを願わない人に幸せが巡ってくるはずがありません。人は世の中の様々な縁でつながりあって、生かされています。本物の仏様は皆んなに優しいです。生きることに悩み苦み、世の中や社会が救えない人に、そっと手を差し伸べて、寄り添うのが宗教である。とお釈迦さまは説かれました。世の中全員同じ考えにしてやろうとか、順調に人生歩んでいる人へも強制的に入信させたりする、宗教には気をつけなければなりません。少しの知恵を教え、ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む。ともに生きる。人が生きる心のよりどころとしてお寺は存在しています。

今月の禅語・仏教語「脚下照顧」

「きゃっかしょうこ」と読みます。靴を揃えなさい、足下に気をつけなさいという意味と、自分自身のことを顧みるのを忘れないように、という禅語です。人生においても前へ前へ進んで行く時にも、時には足下をすくわれない様に、自己を見つめながら、自分の足で丁寧に歩み出しましょう。足下の乱れは心の乱れ。靴揃えていますか？

お盆の棚経参りについて（自宅へのお参り）

本年も護持会員の方を中心に明石や近隣のご自宅へお盆のお参りに伺います。7月中旬頃にお葉書を送りますので、確認をお願いします。コロナ以降を期に共働きの時代、平日に留守のお宅も多くなっておりますので、お参り地域を縮小してご案内しております。ご遠方の檀信徒様、永代供養の契約者様、棚経の日程調整が難しい方は、お盆の施食会をお申し込みの上ご参拝ください。

本年も住職、役僧の山田氏で手分けしてお参りいたします。東堂は今年で八十歳の高齢の為、猛暑の中の運転は危険を伴いますので、お寺の近所のお参りになる予定です。

お盆棚経でのお願い

近年のお盆参りは、熱中症警戒アラートが発表され、急ぐ用事がない人へは外出を控える呼びかけがでる程の酷暑になっております。炎天下の中を衣で朝から夕方まで参っており、毎年息が苦しくなったり、1日が終わると倒れてしまうほど体力を奪われながら、お参りしております。お迎えいただく場合は、クーラー、扇風機などでお迎えいただけると、大変助かります。近隣寺院におかれましても、昔と違う猛暑の為、住職が倒れてしまい棚経を廃止する寺院が年々増えております。また、車でお参りさせていただきますが、車の駐めにくい地域で駐車場をお持ちの方、マンションで外来用の駐車場がある方などは、ご準備いただけますと助かります。ご近所様とのトラブルを防ぐ為、コインパーキングがある場合は少し遠くても駐めてから歩いていますが、時間を奪われてしまいますし、どうしても駐める場所がない時に過去にも駐車違反のステッカーを貼られることもありました。供養に行っているのに大変心が痛みます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

雲晴寺
電話　078－911－6460
FAX　078－962－6464
ホームページ
https://unseiji.or.jp
QRコード→

お葬儀にまつわるお話

近年、お葬式に関する環境は大きく変わってきていると聞きます。特に都市部の町の方ではお寺との関係が薄れ、何も知らずにネットで検索してお願いした葬儀社の言われるままに、葬儀を執り行い、遠方の僧侶が来られ（なかには資格のない僧侶ふうな人もいると聞きます）、その後のお参りに来てもらえない、戒名を授かっていない、四十九日の法事を執り行ってもらえるお寺さんがいないなどの、ご相談が近年非常に増えております。供養は二の次で葬儀をビジネスとしてとらえる業者が横行しております。ご注意ください。

そのような業者は初めは費用は安く言っておきながら、高い祭壇を勧めたり、過剰なほどのお花を勧めたり、中には僧侶は呼ばなくても、葬儀はできますとまで言います。宗教者の立場からみると、お花が少なく祭壇が小さくても、僧侶が戒名を授け仏の道へ導く授戒を行い読経供養し、厳かな中、皆さんが心を込めて焼香すれば、立派な葬儀になります。これを家族葬と言います。

決して省くところを間違わないでください。読経（授戒・仏弟子になる儀式）がなければ葬儀ではございません。

亡くなられた方を病院や自宅から直接火葬場へ運ばれ、読経なしで火葬されますと、言い方が悪いですが、ご遺体を燃やしているだけです。

TVや雑誌などで最近良く聞くのが「直葬」という言葉。直に火葬場へ、という意味です。TVで男性タレントが「俺は葬儀はいらない、墓もいらない。直葬でいい、骨は撒け」と言っていましたが、正直私は「この人はずいぶん自分勝手な人だな」と思いました。残された奥さんや子供は愛するお父さんを亡くした悲しみをどうやって乗り越えていけばいいの？送る側にとって親しい人を亡くす悲しみは、とても大きな「人生の大問題」です。「葬儀はいらないお墓もいらない」なんて自分の都合ばかりで大切な人の事を全然考えてない。

私自身は葬儀式に様々なスタイルがあることはかまわないと思うんですが、TVや雑誌、悪質な葬儀社の営業トークにだまされて、大事な事を見落としてはならないと思っています。それはお葬式だけで「お弔い」が終わるわけではない、ということです。お弔いというのは、親しい人を亡くした悲しみが癒やされていく課程です。仏教で言えば葬儀から四十九日、納骨を経て年忌法要まで、儀式として筋立てられたプロセスを通して、その悲しみがいつの間にか整理されきちんと心の中に収まっていく、その過程が「お弔い」であり、主人公は「死者」ではなく「送る側」。このことを忘れているから「直葬」なんて発想が出てくる。お葬式って二回できないんです。供養を省き、病院などから直接火葬場まで送って終わりの葬儀社、おもしろおかしく伝えるだけのメディアに当人の悲しみ苦しみなんてわかりっこないんですから、だまされてはダメです。

ご葬儀などの悲しみはある日突然やってきます。儀式の準備が急を要する場合が多いため、戸惑う方もおられると思います。当山では、そんなお悩みやご不安を解消していただき、安心して大切な人のために、最期にできる素敵なお別れをお手伝いし、ご供養いたします。

一般的な葬儀の流れ

大切な故人様が亡くなられた場合は、まずお寺にご連絡ください。葬儀の場所や規模など、ご遺族様とご相談のうえ、葬儀社と連携し、安心・納得の葬儀をご提案いたします。近隣の大半はまともな葬儀社ですが、自分たちの都合をおしつけてくる葬儀社の言うことを鵜呑みにしないようにしましょう。「僧侶は手配します」とさかんに進めてくる葬儀社には、菩提寺である雲晴寺住職にお願いしていることを伝えましょう。

もしもの時に慌てず正しい判断をするために、儀場などが決まってからでは、日数的にも出来ることに限りがあります。葬儀前にお寺にご相談ください。檀信徒や永代供養をお申し込みの方、坐禅会や、あらゆるご縁のある方は、住職からすると、家族や親族と同じ気持ちです。今は故郷の明石から遠く離れていても、ご先祖さまの菩提寺として、責任をもって丁寧に、人生の最後を送らせていただきます。

質問コーナーQ&A

Q 今年は何回忌にあたっているなどの法事のご案内は届きますか？

A 新年にお渡ししている暦、禅の友、寺報などに回忌表が載っておりますので、回忌を確認いただき、お申し込みください。わからない場合はお問い合わせください。土日の法事は早めに予定が入ってしまう事が多いですので、ご希望の場合は早めにお申し込みください。

Q 月例坐禅会に行きたいのですが、申込みは必要でしょうか？また、足の悪い知り合いや子どもも連れて行って良いでしょうか？

A 月例の坐禅会は事前の申込みは必要ございません。また、どなたが来られても大丈夫です。足の悪い方へは椅子坐禅もありますし、お子さまも来られています。当寺の月例坐禅会は、生きにくい世の中で、少しの時間を閑かなお寺で日常生活からはなれ、自分と向き合っていただく会です。僧侶の修行のように、厳しいものではありません。詳しくは雲晴寺のホームページに載せてあります。

Q 親族がとある新興宗教に入信してしまい、元々仏教徒だったのですが、仏壇を壊され、位牌もなく、戒名も変えてしまい、両親のご供養が長くできておりません。どのようにしたらよろしいでしょうか？手を合わすところもなく、寂しくて心が苦しいです。

A 永らくのご苦労や苦しみは、想像するだけで、大変なことだったでしょう。過去にも同じようなことで、ご相談に来られた方がいますので、どうぞ安心してください。

皆さんには珍しいことで、誰にも相談できなくても、お寺は沢山の事例のご相談を受けてきております。まずは、何でもお話ください。私、住職が丁寧にお話をお聞きして、最善の供養の仕方をアドバイスさせていただきます。孤独ではないです。その為にお寺があり、住職がいます。

Q 生きている間に戒名をいただくことはできますか？子どもの考えが良くわからなくて、葬儀をする意味があるのかと言っているので、雲晴寺さんに葬儀をお願いしてくれるか不安です。

A まず、戒名授与はもちろん可能です。生前戒名といいますが、本来戒名とは仏さまの弟子になった証ですので、信仰の上、生きている間に住職から授かります。決して亡くなられた人の名前ではなく仏教徒の名前なのです。

ただ、日本では古くから、亡くなったときに葬儀を通して仏さまの弟子にしてきましたので、生前戒名になじみがないのでしょう。私も師匠であり先代の住職（東堂）から私は法を受け継ぎ、お釈迦さまから八十四代目の弟子です。その住職から戒名を授かる皆様はお釈迦さまから八十五代目の弟子になりお釈迦さまの教えを受けることになるとても有難いことなのです。

たまに戒名は自分で付けるとか言われるおかしな方がいますが、それは戒名ではないです。ネットの業者が適当に名前を付けるのも、当然ながら仏教の真似事であり、ただのビジネスです。

また、ご質問にありましたように、今まで、雲晴寺がお参りに行かせていただき、菩提寺としてご先祖の戒名を授けてきたのに、突然ご連絡が取れなくなる方も稀にいらっしゃいます。おそらく葬儀をせずに直葬されたりしているのでしょう。現在お参りしている方の中でも残念ながら、お子さまの様子などを見ていますと、今までご先祖をとても大切にされていても、葬儀すらしないのでは？と思ってしまう家はあります。ですから、事前に戒名を授かったり、後世の人と良く話し合いをし、どのような葬儀をして欲しいのか、お祀り方に困った時は雲晴寺に相談することをお伝いただくことはとても大切なことです。適当にしていて悲しむのは、結局はその家のご先祖さまです。

永代供養墓を生前申込みされている方も、必ず家族や高齢者向け施設などの人に元気な内に、お寺に申込みをしていること、葬儀をお願いしていることなどを伝えておきましょう。

Q ぶしつけですがご法事のお布施を教えてください。親族も少なく相談できる人がいませんので、目安がわかりません。

A 本来お布施とは、料金や僧侶へのお礼ではなく、僧侶を通して御本尊にお供えするもので、そのお下がりを寺がお預かりし寺院維持のための諸経費や給与に当てられます。以前は家族揃ってお住まいの方が多く、お布施に関しても、目上の人から聞いて自然とお包みされていました。ですのでお寺もお気持ちでと答えているお寺様も多かったですが、実際に地域やお寺の格式、供養の内容により目安があるのも事実ですし、核家族化が進み、目安がわからない方も増えているように思います。お気軽に聞いていただければ、檀信徒の方へは目安をお伝えさせていただきます。現状、葬儀のお布施は直接聞かれたり葬儀社さんを通して聞かれることも多いですが、法事は本堂使用料以外、基本的にお任せしておりますが、現在、お坊さんドットコムやお坊さん便のような、僧侶を使ったネットビジネスも横行していますので、お坊さん便でお寺じゃない会社へのお布施と言うか料金や資格があるかないかわからない人へのお布施よりは、お気持ち包んでいただけるとありがたいです。と冗談を交えてお答えする時もあります。

永代供養墓「慈雲」永代供養付き墓地「慈縁」のご案内

雲晴寺境内墓地には、従来の一般墓地の他に、個人やご夫婦でも申込みができ、お墓を守る人がいなくても安心の永代供養墓「慈雲」がございます。個別のお墓に比べて、費用が抑えられるのも特徴です。

また、永代供養墓と一般墓地の利点を併せもったお墓「慈縁」も大変好評をいただいております。ご家族やご夫婦で申込み、個別にお参りできる永代供養付きのお墓です。一般墓地として使用いただき、後々後継者がいなくなられた後、お墓に眠られている皆さま揃って永代供養墓「慈雲」へ合祀し永代にわたり供養いたします。

詳しいパンフレットがありますので、ご連絡いただきましたらご送付いたします。

昨今、永代供養墓に注目があつまっていますが、当寺の場合はお参りしやすい立地条件と、お寺だから安心できると言っていただいており、一般墓地も大変人気があります。

令和五年年回表

（亡くなられた年）

一周忌	令和四年	（2022年）
三回忌	令和三年	（2021年）
七回忌	平成二十九年	（2017年）
十三回忌	平成二十三年	（2011年）
十七回忌	平成十九年	（2007年）
二十三回忌	平成十三年	（2001年）
二十五回忌	平成十一年	（1999年）
二十七回忌	平成九年	（1997年）
三十三回忌	平成三年	（1991年）
三十七回忌	昭和六十二年	（1987年）
四十三回忌	昭和五十六年	（1981年）
四十七回忌	昭和五十二年	（1977年）
五十回忌	昭和四十九年	（1974年）

年回表を確認の上、法事のお申し込みをしてください。